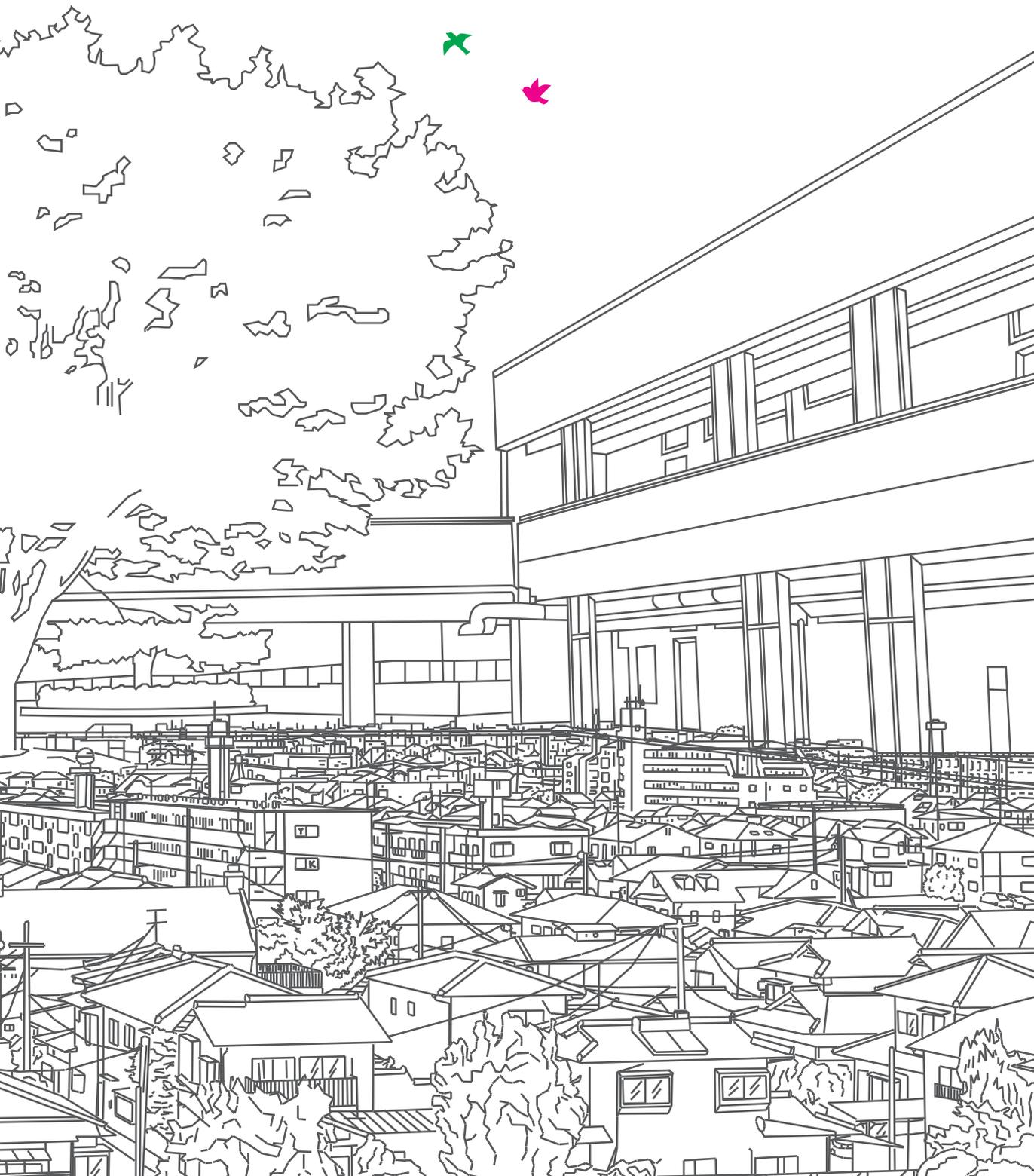


Ikoiva





## もくじ

01 . . . . .	もくじ
02 . . . . .	What's Ikoiva?
03 . . . . .	すけじゅーる
ごうどうわーく	
04 . . . . .	6がつ9にち、6がつ16にち
05 . . . . .	6がつ30にち、8がつ4にち
06 . . . . .	8がつ18にち、8がつ29-30にち
07 . . . . .	9がつ5-6にち（中間発表）、9がつ12-13にち
08 . . . . .	9がつ27にち（中間プレゼンボード提出）
09 . . . . .	10がつ3-4、17-18、23-25、31-11がつ1にち、11がつ14にち
10 . . . . .	11がつ14-15にち（白亜祭・最終発表会）
ぐるーぶしょうかい	
11	
12、13 . . . . .	ビル班
14、15 . . . . .	自然班
16、17 . . . . .	商店街班
18、19 . . . . .	住宅班
20、21 . . . . .	畑・田んぼ（田畑）班
22、23 . . . . .	スラム班
あんけーと	
24、25 . . . . .	参加者あんけーと
26、27 . . . . .	参加者あんけーと、来場者あんけーと、しゃしん
28 . . . . .	Ikoivaしゃしんかん
ごしょうかい	
29 . . . . .	中間ポスター、本番ポスター、新聞、ぶろぐURL
すぺしゃるさんくす	
30 . . . . .	協賛・協力
さんかしゃめいぼ	

# What's Ikoiva?

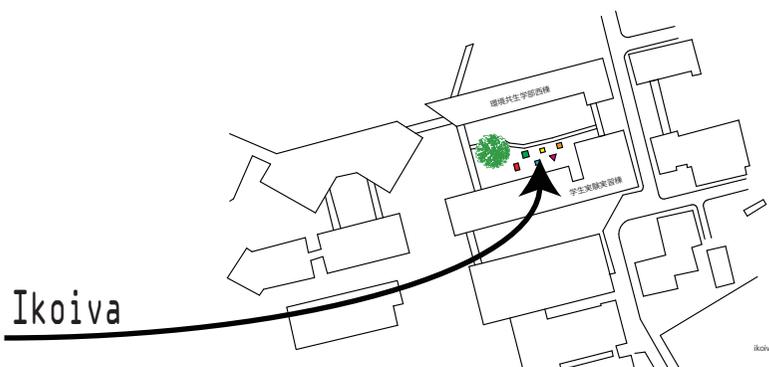
熊本県立大学、九州大学、佐賀大学の3年生有志は、共同して熊本県立大学にて平成21年1月に開かれた学園祭「白亜祭」に向けて「中庭の憩いの場 -ikoiva-」を作るためワークショップを行いました。木材を主な素材として、地域の人々や学生が気軽に中庭で交流を持てるような空間をもつ個性的な休憩所を作ることを目指して活動を行いました。デザインの方向性について三大学での会議を重ねた結果、「まちの要素が感じられる休憩所」を制作することに決定しました。これは、まちの中にある要素としてビル群、農地、自然、住宅、スラム街、商店街の6つの構成要素に分け、各々の特徴をそれぞれの空間に与えます。

例えば、ビル群では、高い建物に囲まれた雰囲気を感じ、商店街では賑やかで楽しい雰囲気を感じられます。6つの個性がある空間を中庭に作り、来場者は ikoiva 全体をぐるりと回ること、木のぬくもりを感じながら色々な空間を味わい、憩えるようにと考えています。

開催場所：熊本県立大学 環境共生学部西棟中庭

開催日程：2009年11月14日（土）、15日（日）白亜祭（県立大学学園祭）期間中  
ワークショップの目的

- ・ 学生が主体となって「憩いの場」を実際の敷地にデザインする。
- ・ 熊本県立大学の学園祭「白亜祭」で成果を披露し、地域の人々や学生に利用してもらう。
- ・ 活動を通じて、学生が建築制作とイベント運営の能力を身につける。

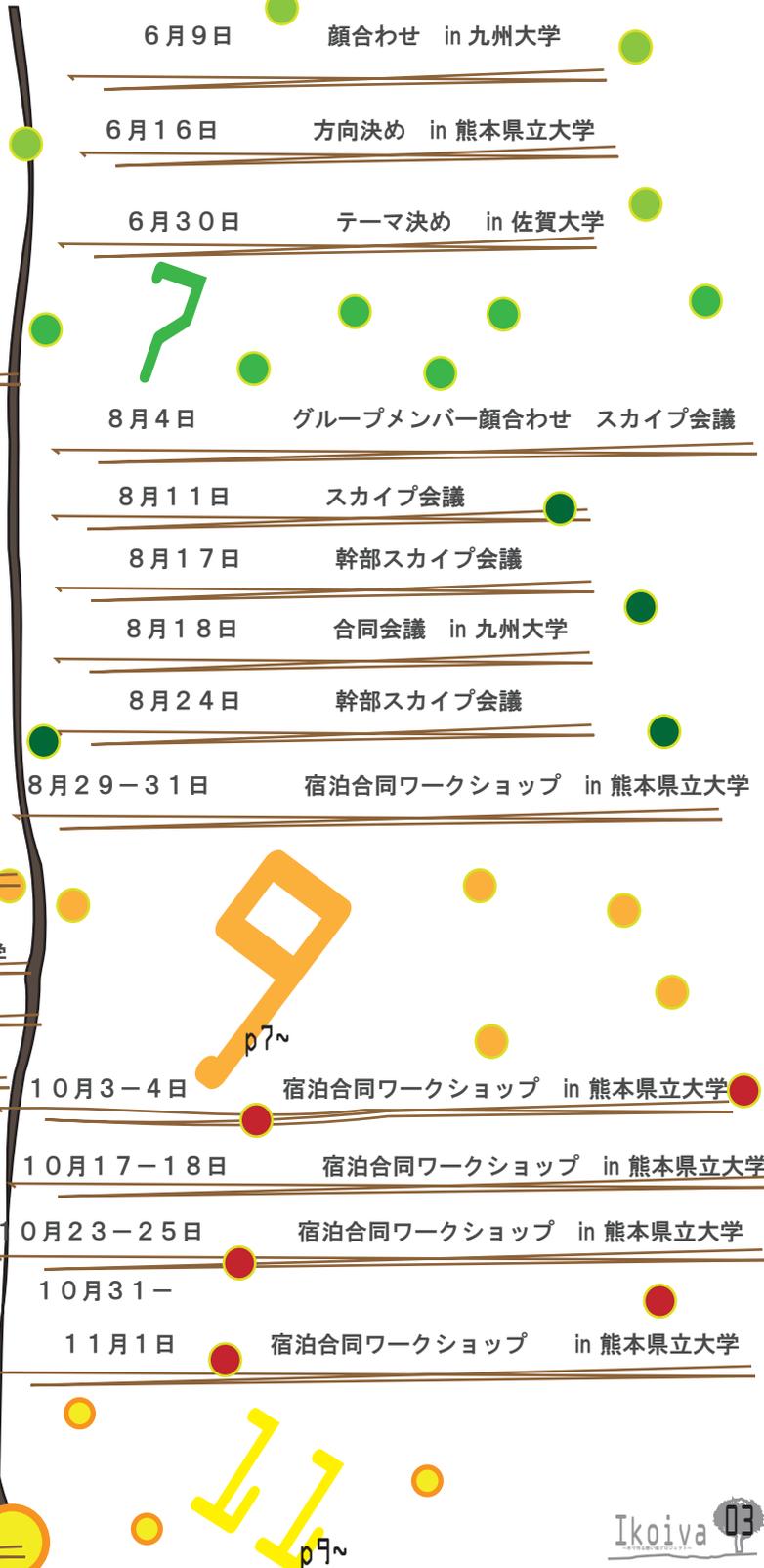
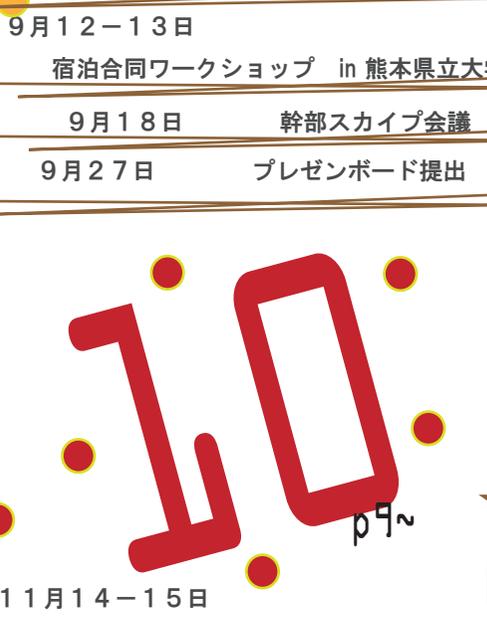
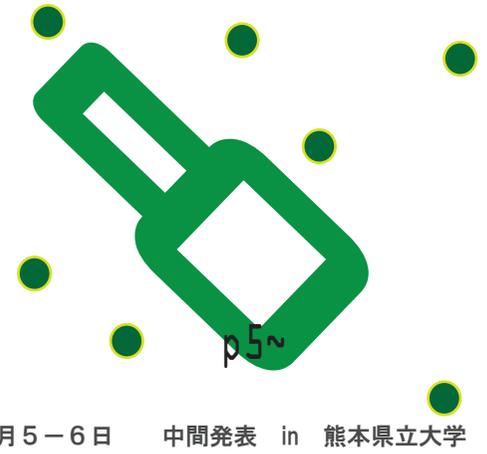
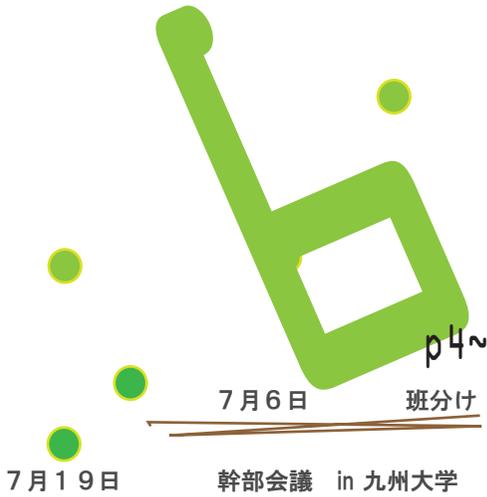


ikoiva 紀要 04

# ～完成までの足どり～

# Ikoiva

～木で作る憩い場プロジェクト～



2009.06.09  
3大学合同会議  
in  
九州大学



九州大学メンバーと初顔合わせ。  
今まで熊本県立大学の  
居住3年生で話し合ってきたことや、  
九州大学建築学科・佐賀大学理工学科  
の学生が考えてきたことの  
意見交換を行った。  
そして、  
今後のワークショップの進め方、  
熊本と福岡、佐賀という距離を  
考慮に入れ、連絡のとり方などを  
話し合う。  
このとき違う用件で来ていた  
佐賀大学のメンバーと偶然出会う。  
これがきっかけとなり、  
当初から白亜祭に向けた  
九州大学の有志の学生との  
ワークショップに、  
佐賀大学の有志の学生も  
加わることが決定する。  
この日の夜に、  
3大学の学生とOB、教員を交えて  
親睦会が行われた。

Ikoiva×PUK×KU×SU

Starting Project-Before Interimpresentation



2009.06.16  
3大学合同会議  
in  
熊本県立大学



この合同会議は、  
3大学合同プロジェクトの  
方向性を決めるものだった。  
まず、会議のテーマは、  
去年の合同プロジェクト  
『熊本県立大学 × 九州大学 -ASOVIVA-』  
を継続するか、  
それとも  
新たなプロジェクトを立ち上げるか  
というものだった。  
議論を重ねた結果、  
今年の合同プロジェクトでは  
新しいテーマでワークショップを  
していくことに決定した。  
そして  
「人が人のためにできること  
-利用者が主体のものを作る-」  
というテーマのもとで  
次回の合同会議 in 佐賀大学で、  
各大学具体的な案を持ち寄り、  
プロジェクトテーマの決定を目標とした。



# 2009.06.30 3 大学合同会議 in 佐賀大学



今回の会議では、  
具体的なテーマの決定を行った。  
各大学のプロジェクト参加者が持ち寄った  
具体的な案・コンセプト・用途など、

「人が人のためにできること  
- 利用者が主体のもの -」

というコンセプトのみから生まれた  
アイデアを会議室の床一面に並べ、  
全員で自由に案を見て考えを伝えあつた。  
その後、アイデアの形状から  
ベンチ・BOX・レベル差・小屋・それ以外の  
特質なものとし、グループ分けをした。  
一人一人の案に共通しているものとして  
人の安らぐことのできる「憩いの場」という  
テーマが浮かび上がってきた。  
次に、この「憩いの場」を形作るうえでの  
キーワードとして掲げたものが「まち」  
である。  
最終的に、私たちが考える  
「まち」を形成している要素として  
ビル群、畑・田んぼ、自然、商店街、住宅、  
スラム街の6つの要素を選定した。  
これらの要素に合わせて6つのグループを  
作ることにした。



## Ikoiva×PUK×KU×SU

## 2009.08.04 Skype 会議 and ブログ開設



リーダーブログ



各大学のブログ



## Starting Project-Before Interimpresentation

### 各グループのブログ



■緑・川・緑地班



■商店街班



■ビル群班



■住宅班



■スラム班



■田畑班

8月4日  
第一回 Skype 会議が行われる。  
6つのグループのメンバー自己紹介と  
顔合わせ。  
これをきっかけに、直接集まって話し合う  
時間がないときは、Skype を使った会議を  
各グループごとの会議や、リーダーのみでの  
会議など様々な形でやっていく。  
遅い時間でも、声だけでなくテレビ電話の  
ような感覚でできるため、うまく活用し案や  
考えを詰めていったグループもあった。  
同じ時期に開設した各グループのブログなど  
を使って、グループの案や方向性を  
確立させていく。  
また、連絡や進行状況の把握を確実に  
行うことができるように、  
6月の中旬に県立大学、九州大学、  
佐賀大学で各大学の全体・リーダー専用・  
各グループのブログを立ち上げた。  
事務的なことから、全体の連絡はブログを  
使って行われた。  
課題などの合間をぬって、  
なおかつ熊本と福岡と佐賀という距離を感じ  
させないグループの団結力や案の確立が  
できていったのも  
これらのブログの成果である。

2009.08.18  
3 大学合同会議  
in  
九州大学



九州大学にワークショップメンバーが集まって話し合いをおこなった。この話し合いが、各大学にメンバーが移動しての話し合いとしては最後となる。これ以後のワークショップは、全て県立大学で行われることになる。この合同会議では、6つのグループ（ビル、商店街、自然、住宅、畑・田んぼ、スラム街）の関連性や6つの要素をどのように成果物に反映させていくかを話し合った。成果物の統一性をもたせかたとして、スケール感などを実際のものに合わせる、つまり、まちの縮小模型を創るのではなく、“人が憩える場所を提案する”ということを中心に考え、6つの“まち”の要素のそれぞれの特徴を空間に与えながら各グループでそれぞれに休憩所を提案していくことにした。

□施工中の IkoivaT シャツの着こなし方（この日に決定した Ikoiva T シャツの完成版をみんなで試着）



□T シャツのデザイン and 居住のつなぎデザイン  
居住 3年 高野愛美

Ikoiva×PUK×KU×SU

Starting Project-Before Interimpresentation



□各班の Pre プレゼンテーション



2009.08.29-30

第1回

宿泊合同ワークショップ

in

熊本県立大学



9月6日の中間発表に向けて各グループで本格的な話し合いへと移っていく。3日間にわたるワークショップを充実したものにするために、一日ずつ目標を明確にし、ワークショップの終了時に報告会を行った。

□8月29日（一日目）

目標：グループ案の方向性決め

現段階で、今回のワークショップまでに、ブログや Skype などを使って自分たちの案や考えがどこまで進んでいるかを報告し、各グループに分かれ話し合いをし、最後に一日目の成果報告を行った。

□8月30日（二日目）

目標：案の明確化とイメージパース

一日目のグループ案の方向性に沿って、より明確化させ、具体的な案の提示を二日目の最終目標とした。

また、案にあった成果物のイメージ像も話し合いの内容に入れた。前日同様に、二日目の成果報告を行った。

□8月31日（三日目）

目標：中間発表に向けた Pre プレゼン

第一回ワークショップの集大成として、中間発表に向けたプレゼンのリハーサル（パワーポイントを使った報告会）を行った。各グループでこれまでの考えを整理し、グループの方向性や成果物の形に対して、他のグループのメンバーに見てもらい、指摘を受けることによって、問題点やもう一度検討する点を発見することができた。

口末廣香織氏による講演



口各班によるプレゼンテーションと講評



■緑・山・川班

■畑・田んぼ班

■商店街班

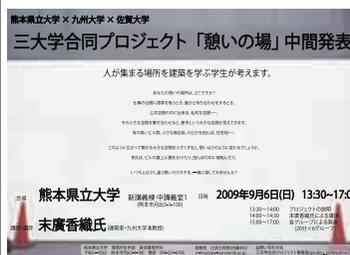
■住宅班

■ビル群班

■スラム班



口中間発表ポスター



口講評



末廣香織准教授

辻原万規彦准教授

口準備の様子



2009.09.05-06  
中間発表準備  
and  
中間発表  
in  
熊本県立大学



6日の中間発表に向けた最終調整を行った。  
中間発表におけるプレゼン内容として、  
成果物のテーマ

- ・コンセプト
- ・図面
- ・模型写真
- ・施工方法（主に接合部など）

をパワーポイントの中に提示することを  
要求した。模型は、10分の1模型を  
各グループで制作し、これを使って  
プレゼンを進めていくようにした。  
中間発表当日は、末廣香織准教授  
（九州大学大学院人間環境学研究院）と  
辻原万規彦准教授（熊本県立大学）を  
講師に招き、講評していただいた。  
そして、事前に、ポスターや中間発表の  
日程を県内企業・学校・大学の方に  
送付したこともあり、地域の方、  
他大学の学生や高校生などにも  
来ていただくことができた。

Interinpresentation

Ikoiva×PUK×KU×SU

2009.09.12-13

第2回

宿泊合同ワークショップ

in

熊本県立大学



6日の中間発表で講評や指摘を頂いたことを踏まえて、  
各グループで案の練り直しに取り掛かる。今回は、実際に  
施工するということを見据え、提供していただく木材にも限りがある  
ことから、2日間のワークショップの最終目標として、  
“成果物に使用する木材の

総立米数を終了時に提出する”  
ということを各グループに提示した。

(★ 総立米数とは、木材の量を体積で算出したもので、  
実際の材木店などでは、1つの材を4m単位で算出するのが  
一般的である。木材を発注する際に必要となる。)  
今回の総立米数を算出する際に使用した案は、中間発表時に  
使用した案、もしくは、少し手を加えたものであるが、  
実際に数値として出すことで、今までは構想上・平面上で  
考えていた案を現実性を考えて再度案の確立を行う手立てとする  
ためである。

大学での設計課題では、自分達が計画したものを実際に施工する  
ということはほとんどないため、実際に実寸大のものを作る  
今回の ikoiva プロジェクトでは、施工の方法なども考えながら  
計画を進めていかなければならない。その点が、大学で学ぶ演習  
とは大きく異なる点だと考える。

どのグループも、木材の量を減らしたり、目安とした規格の材で  
対応できるような案に変更する作業を何度も繰り返し計算を行い  
最終的に全てのグループの案の現時点での立米数を算出することが  
できた。



口作業後にとったブリクラ(16人)



プレゼンボード提出



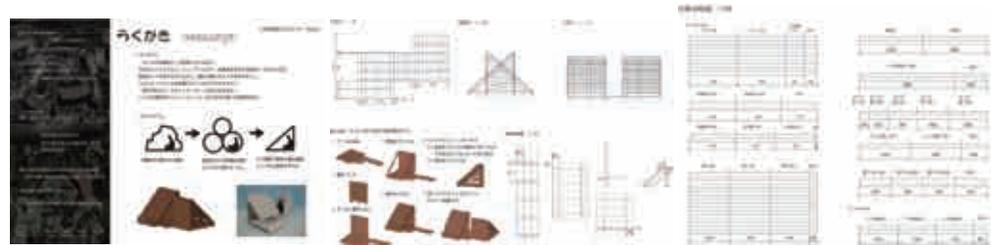
中間発表を終え、施工に入る前に、各グループの案を最終決定させ、詳細も織り込んだプレゼンボードの提出を行った。

プレゼンボードに入れる内容は、

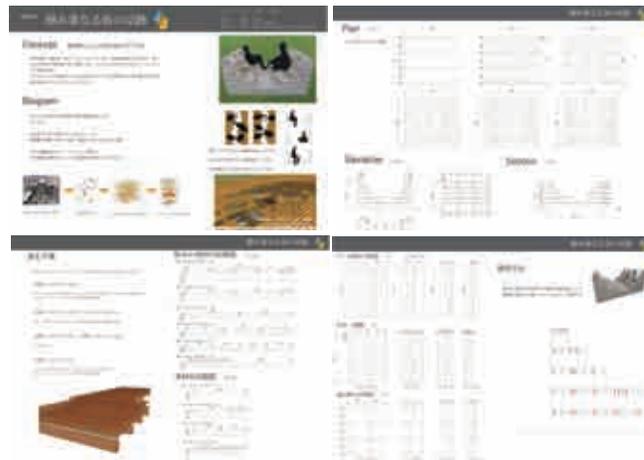
- ・タイトル
  - ・代表者、メンバー名
  - ・施工手順
  - ・各4メートル部材の切断図
  - ・各部接合方法詳細図
  - ・図面（平面、立面）
  - ・CG、パース
  - ・模型写真
  - ・コンセプト、説明
- 以上の9つである。

施工がスムーズにいくように、完成度も大学の設計課題で提出するプレゼンボードのレベルとし、対象者としては、白亜祭当日の来場者の方々から、材木店や専門の方々とした。そして、要求されたものが明確に記載され誰が見ても見やすく理解できる内容とした。これらの要素が入っているプレゼンボードを基に施工が進められていくこととなる。

□各班のプレゼンボード



■スラム班



■商店街班



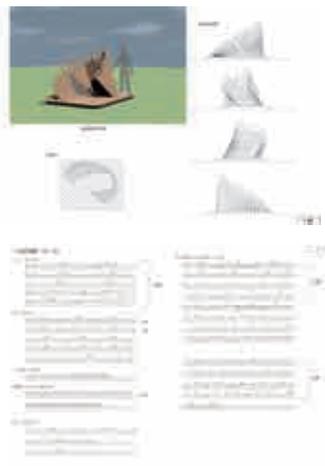
■ビル群班

Ikoiva×PUK×KU×SU

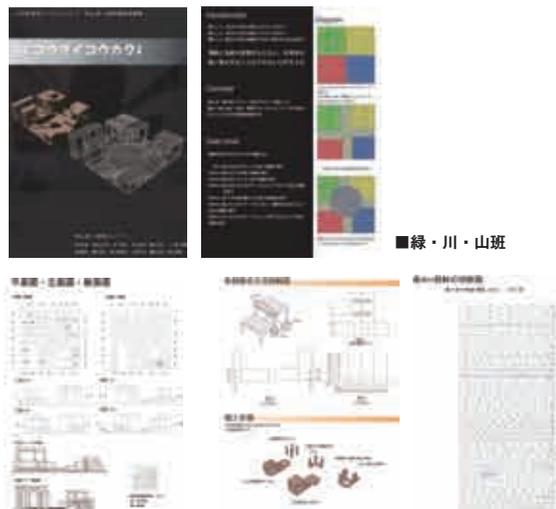
Interrepresentation-Before Create



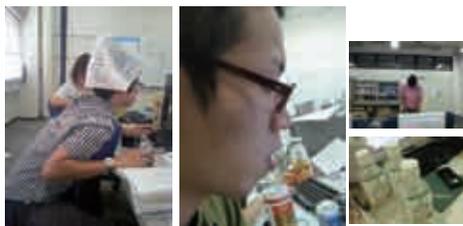
■住宅班



■緑・川・山班



■畑・田んぼ班



□プレゼンボード作成の様子



施工

in

熊本県立大学



2009.10.03-04

今回のワークショップでは、施工の際に使う工具である鋸・インパクトドライバー・電動のこぎりなどの普段使いに慣れない工具の指導を、共和建設の大工（上田剛広さん）、大工塾生（古賀雅也さん）を招いて行った。実際に自分たちでやってみると一つの材を切り出す作業に予想以上に時間を取られたりするなど、施工に入ってからでないとわからないことが多くあったように感じた。一通り工具の使い方を教わると、前回提出したプレゼンボードに記載した、施工方法が進めていくことが可能かどうかのアドバイスをいただいたり、各班ごとに施工に入っていきなどいよいよワークショップも大詰めとなっていく。

2009.10.17-18

今回の合同ワークショップは、木材の状況から、作業ができる班のみのワークショップとなった。前回のワークショップから活動内容が施工へとシフトしていったことから、白亜祭という最終発表の期限を考えると、毎週土日に行われるワークショップだけを活動日とすると、到底作業が間に合わない。そのため、講義がある合同を縫って、木材にやすりをかけたり防腐剤を塗布したりと、県立大の学生が作業している姿を毎日とっていいほど見掛けた。

口球磨村森林組合まで木材を受け取りに



口木材の切り出しと防腐剤塗布



Ikoiva X PUK X KU X SU

2009.10.23-25

10月23日に、球磨村森林組合の方から、発注したすべての木材を提供していただいた。これを機に、全てのグループが施工に入ることになる。どのグループも材の切断図を基に材を次々に切り出していき、やすりやサンダーをかけた防腐剤を塗布していく。施工に入ったということはほぼ全ての作業が屋外での作業となる。そのため、天候が良くないと作業を進めることができない。また、施工に入った後のワークショップは雨天の場合、機材が使用できなかったり、材の状況が良くないため中止となることが決定していた。つまり、作業ができる時に作業を進めておくということが最も大切になっていった。

2009.10.31-11.01

今回のワークショップが、白亜祭前のワークショップとしては最後となる。二日間のワークショップで施工をほぼ完了させる。しかし、どのグループも時間と作業量から考えてもなり大変な作業となった。今回のワークショップが頑張りどころであることをメンバー全員が分かっていたため、この日の作業のためにある程度遅い時間でも作業が進められるようにと確保しておいた作業灯を照らして、PM10時頃まで作業を行った。翌日も、午前中の悪天候の中でも、自分たちのグループの作業を進めることができなくても、他のグループの作業を手が空いている人で手伝ったりと、かなり効率よく作業が進んでいったと感じた。

2009.11.02-11.14

ワークショップの集大成として、白亜祭当日に展示する際の来場者向けのプレゼンテーションボードの作成を県立大生メインで行った。要素としては、コンセプトや作り方など前回作成したものとは違うものである。九大のリーダーには当日配布されたパンフレット作りをその間に進めてもらい、自分たちのしなくてはならないことを連絡を取り合い進めていった。

Interinpresentation-Before Create



口作業灯を使用している作業



口施工の様子





## 6つの班紹介

- ・実物写真
- ・コンセプト
- ・ダイアグラム
- ・平面図
- ・立面図
- ・施工写真
- ・その他写真

### 総評

それぞれの作品には、さらなる工夫が欲しかった部分も多々あったが、全体としてはみんな非常によく頑張ったと思う。普段学校でやっている課題とは異なり、何しろ最後は考えたものを自分たちで作らないといけないのだから、簡単な話ではない。今回のワークショップは、その運営や資金集めから広報、施工まで、全て3大学の学生の手で実現したわけで、その過程での苦労は並々ならぬものがあったことだろう。表面的なデザインだけでなく、こうした経験全てが参加したみんなの糧になっていることは間違いない。それぞれが自信を持っていいと思う。お疲れさまでした。

九州大学大学院人間環境学研究院  
 末廣香織准教授

ビル…P12～13

自然…P14～15

商店街…P16～17

住宅…P18～19

畑・田んぼ…P20～21

スラム…P22～23

# Ikoiva

X

## ビル



↑中から見上げた写真。  
四角形がうねりながらのぼっているのがわかる。  
最後の小さな四角からは空が顔をのぞかせる。



### concept

空間を創る者。  
無限に広がる空、  
その1シーンを切り取り、  
ひとの心の中に刻み込む。  
当たり前のように広がる空が  
その瞬間にしかない空に変わる。  
その空を忘れることはない。  
ひとはその空間を仰ぎ、  
その空に夢を抱く。

### diagram

街中にそびえ立つ背の高いビルの群れ。  
その中で立ち止まり見上げるとそこには空があった。  
そう、切り取られた空。  
そのシーンを再現することを目指した。

## Member



Group Leader

豊住由貴 (PUK)

宇高江美 (PUK)

小濱里子 (PUK)

Ikoiva Leader

陳内千弘 (PUK)

藤本綾香 (PUK)

松下千鶴 (PUK)

Ikoiva Leader

山本達也 (PUK)

Group & Ikoiva Leader

中道大樹 (KU)

太田健一 (KU)

大屋綾乃 (KU)

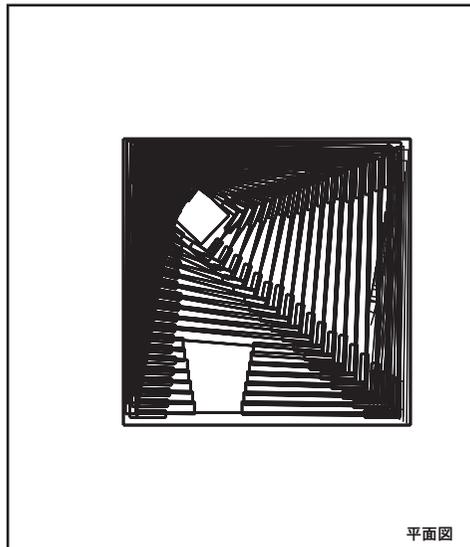
Group Leader

後藤祐貴 (SU)

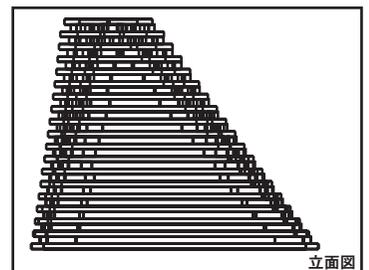
Ikoiva Leader

池田麻衣子 (SU)

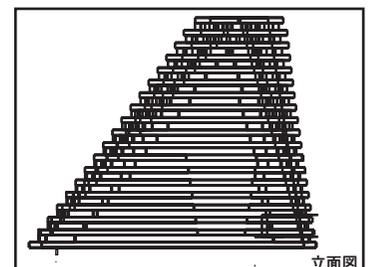
上村恵里 (SU)



平面図



立面図



立面図

## 講評

熊本県立大学環境共生学部  
 辻原 万規彦准教授

中に入って見上げると切り取られた空が見えるように、と言う考え方はブレがないものの、全体的なかたちは中間発表からはずいぶん変わった。しかし、実はこのIkoivaは、外側を上までよじ登るといふ楽しみ方もできる。そう気づかせてくれたことも違は、一番上の枠から下の地面をのぞき込んでいた。メンバー達が思いもつかない使い方であったであろう。自分達の意図と全く正反対にも使われてしまうところに面白さがありそうだ。

九州大学大学院人間環境学研究院  
 末廣香織准教授

外から見るとねじれたピラミッドのようなものだが、外に登っても、中に入っても使うことのできる作品である。板を少しずつずらしながら隙間をあけて組み立てる構法も非常に建築的で、全体としても安定感の感じられるデザインである。特に中に入って経験する空間は立体的で動きがあるとともに、外を見ながらも適度に閉鎖されていて、安心感を感じられた。ただし残念だったのは、入り口のデザインが唐突に見えてしまうことだ。全体の構成を守りながらも出入り口を作る形態的な工夫もできたらう。デザインのレベルは、こうした最後の詰めによって大きく変わる。



角度が難しかった…  
 施工中は図面と睨めっこ…  
 完成したときは、おもわず「ひゃっほーい」と叫んだ。  
 みんなで登り、そして、中に入り見上げた空は、青かった。



限られたスペースで、上へ上へと昇っていく形状を表現。  
 うねりをつけながら上がるにつれて小さくなる四角形。  
 それによって視線も上へと流れていく。



# Ikoiva

X

## 自然



すべて三角形で  
できています。  
周囲を覆っている  
ものは「毛」と呼  
んでいます。



この「毛」ひとつ  
ひとつ、やすりま  
した。  
斜めの材は枝をイ  
メージしていま  
す。



このランチボック  
スで昼食をとつ  
てみてはいかがで  
しょうか？

## concept & diagram

私たちの普段の生活の中における自然とはいったい何だろうか？  
私たちは、いったい街の中の何に対して自然の要素を感じているのだろうか？

考えてみると、街の中において川は緩やかに流れ、木漏れ日は揺れ動き、  
雲はとめどなく形を変える。

つまり、自然というものは常に「揺らめいている」という点に気づくことができる。  
ビルのような静的な街の要素とは対照的に、自然はダイナミックに揺れ動い  
ているのだ。

そこで私たちは、「ゆらめくことを建築空間につくることができないだろうか」と  
考えた。

県立大の中庭に、誰でも気軽にランチをするために立ち入ることのできるボッ  
クスをつくりだす。

ここでは壁全体がゆらめき、外と内の境界はあいまいに区切られている。  
ゆらめく空間は、おだやかな憩いの行為を導き出すことができる。

## Member



Group Leader  
安岡奈名子 (PUK)

麻田瑠美 (PUK)

石橋麻弥 (PUK)

今村友紀 (PUK)

浦口由香 (PUK)

江野友里恵 (PUK)

高野愛美 (PUK)

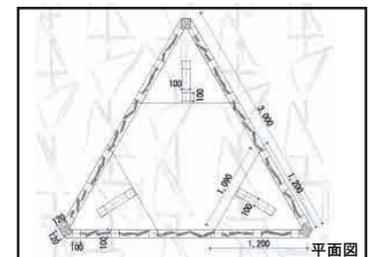
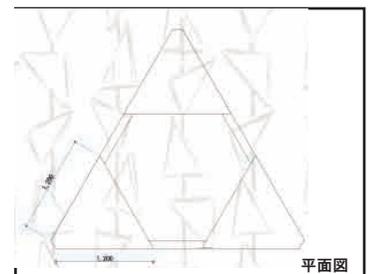
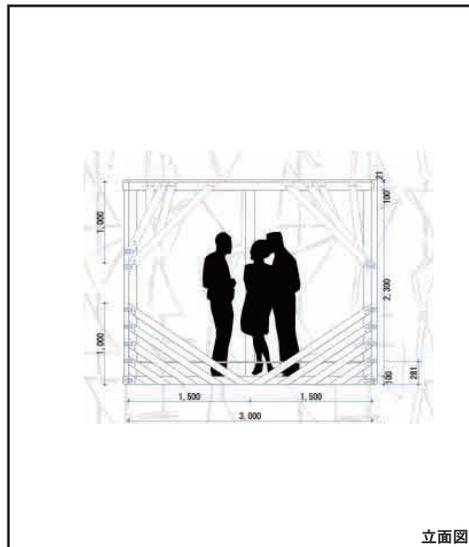
Group Leader  
大和遼 (KU)

島津聡美 (KU)

Initiative Leader  
田中伸穂 (KU)

Group Leader  
泉竜斗 (SU)

森川亜衣 (SU)





## 講評

熊本県立大学環境共生学部  
辻原 万規彦准教授

中間発表の時から、モックアップを製作し、周囲に吊り下げられている木片が風に揺れるように調整していた。さらに、風の流れ方を考えて中庭の中の位置も決めたらしい（本当か？）。中に入って座ってみたいくなるIkoivaができた。木の粉にまみれながら、数多くの木片を黙々と磨いていた姿が印象的であった。実は結構細かいところに遊びごころが隠されており、ハート型や猫の形の木片もあるので、色々探すのも楽しそうである。

九州大学大学院人間環境学研究院  
末廣香織准教授

何しろ、鈴なりにぶら下がっている無数の木片が非常に印象的な作品である。その加工に要した手間を考えると気が遠くなりそうだが、まさにその努力のおかげで、杉材という材料自体の持つ優しさと加工性による楽しさが作品の前面に出ている。一方で骨格自体のデザインに必然性がそれほど感じられないところが残念である。構法についてのちょっとした知識や構造的な感覚があれば、もっと骨格を単純化できただろうし、それによってより風に揺らぐ木片の魅力も高まっただろう。

「世の中のものはずべて三角形でできている」(by自然班)という名言を残した。



# Ikoiva

X

## 商店街



段々のくねくねした座面で自分のお気に入りの場所を見つけてください。

### concept

#### 商店街が人と人を向き合わせてくれる

商店街の憩いとは、店先でのおしゃべりを通して起こる、あたたかな人と人とのふれあいである。

そして、そのおしゃべりの空間とは

人と人を向き合わせてくれる空間である。

そこに座面があれば人はゆっくりと座って会話を楽しめるのではないだろうか。

憩いたい人それぞれが人と人の距離を決めることができる。

自分の気分や体勢に合わせて座面を選ぶことができる。

人数や関係によって座る向きを見つけることができる。

熊本県立大学の中庭に様々なおしゃべりのシーンをつくる。

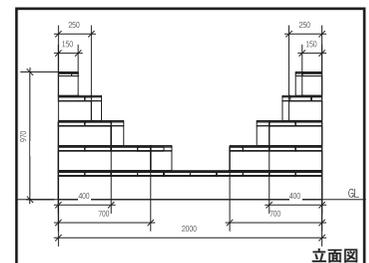
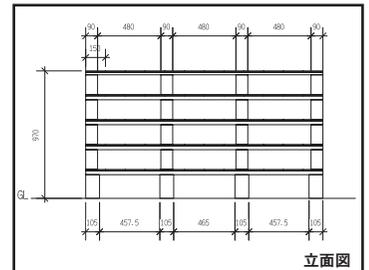
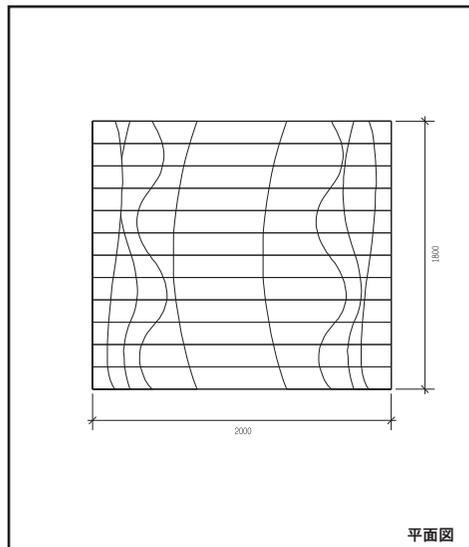
### diagram

商店街を利用するさまざまな人の動線を取り出す。

たとえば、

本を買うために本屋だけによるサラリーマン、  
晩御飯の準備のために八百屋、魚屋など多くの店による主婦、  
などの動線を取り出し、層として積み重ねる。

その動線の空間をおしゃべりの発生場所につくりあげる。



## Member

Group Leader  
仲美帆子 (PUK)

Ikoiva Leader  
大倉愛美 (PUK)

齋藤香菜 (PUK)

高野晴香 (PUK)

花園幸 (PUK)

森隆紀 (PUK)

山田亜都幸 (PUK)

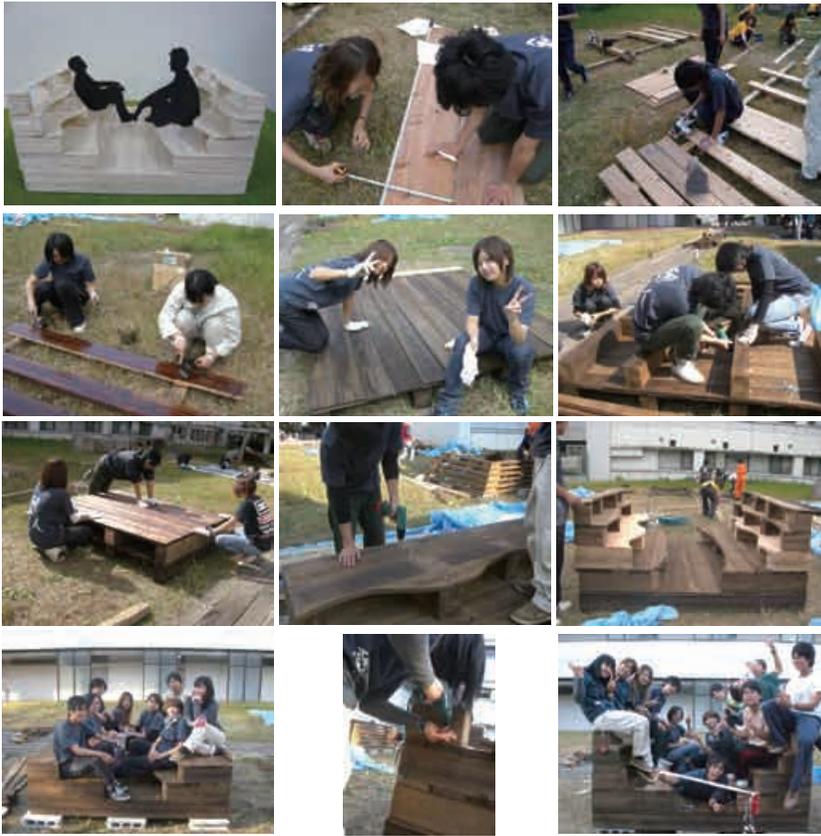
Group Leader  
魚住英司 (KU)

入江奈津子 (KU)

佐藤美奈子 (KU)

Group Leader  
外尾昂之 (SU)

大塚一翼 (SU)



## 講評

熊本県立大学環境共生学部  
 辻原 万規彦准教授

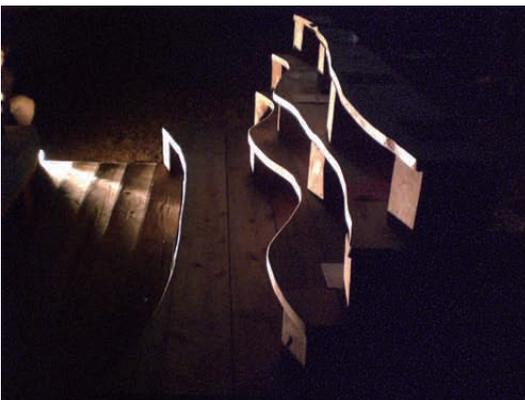
真ん中の段差に向かい合って座ると、なんだかちょうど良い雰囲気である。近くもなく、遠くもない距離で、4つ層のどこに座っても、どこかを机の様に使っても楽しそう。展示をしている時には、それぞれに段に、様々なチラシがおかれていたのだが、ベリッとはがして持って行こうとしたこどもがいた。ああ、ちゃんと伝わっているな、と思った瞬間であった。暖くなれば、きっとここに座って、お弁当を食べる人も出てくるだろう。

九州大学大学院人間環境学研究院  
 末廣香織准教授

人が集まる場所の設定として作られた、棚のような椅子のような家具は、ぱっと見た目には使い方もよく分からないモノだが、人が実際に座って見ると想像以上にくつろげる空間を作り出す。杉の厚板と角材をうまく利用して積み重ねながら組み立てるデザインは、その単純さゆえにかえって完成度が高く見える。少し欲を言えば、もう少し棚の曲線が変化に富んでいたり、棚の高さ自体をもう少し高くして、全体として覆われたような空間が作れば、もっと作品としても力強く、実際いろいろと楽しめただろう。

商店街は eco 班 !!!

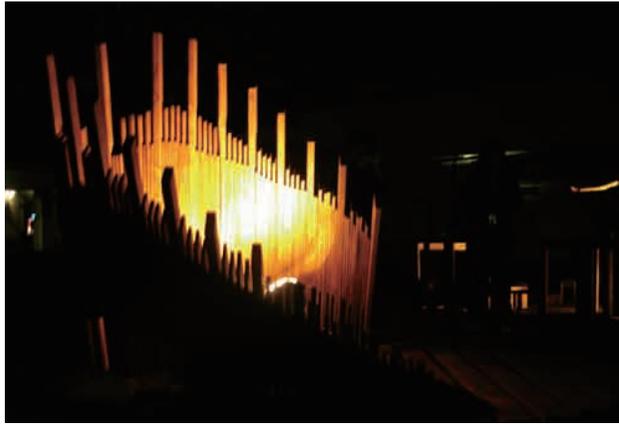
上から3段目の座面以外、すべて、新材ではなく、古材なのです!!!  
 板の厚さや、形がバラバラなのも味を出している秘訣なのです。



# Ikoiva

X

## 住宅



↓ライトアップされた住宅。狭い隙間から洩れた光は繊細な線となり、夜を照らす。



### concept & diagram

私たちの1日の生活を考えてみよう。

昼間は学校や会社などの場所で過ごすことが多い。

昼間のほとんどを過ごす学校や会社に、  
住宅のくつろぎかたを足してやると  
町にやさしい憩い方がうまれる。

家ではどんなふうに住んでいるのかな。

ゆったり座ったり、  
寝転んだり…

家の中でくつろぐように休憩するにはどのような形がよいのだろうか。

ごろりでは座り方や休憩のしかたが変わる。ごろりと休憩します。  
木は一本じゃ弱いけど重ねてずらすと強くて優しい壁になります。

## Member



Group Leader

澤伸彦 (PUK)

臼井希和 (PUK)

國徳倫代 (PUK)

高津朋絵 (PUK)

津村薫光 (PUK)

中島沙也 (PUK)

宮嶋由貴 (PUK)

Group & Ikoiva Leader

岩田和也 (KU)

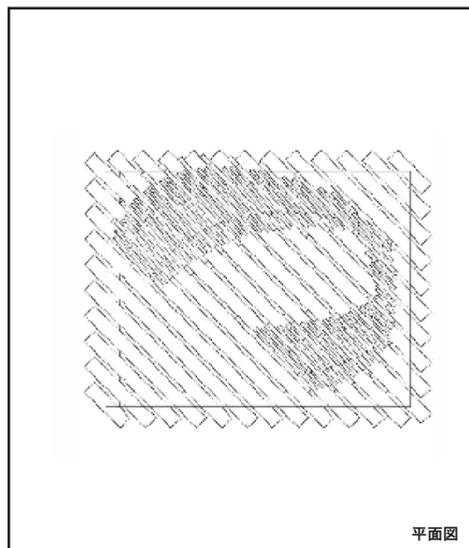
田口嘉基 (KU)

和田雅人 (KU)

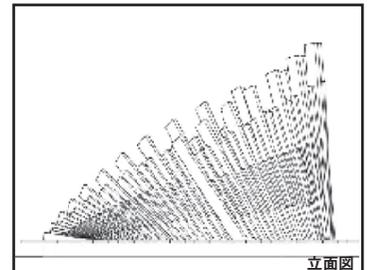
Group Leader

豆田千晃 (SU)

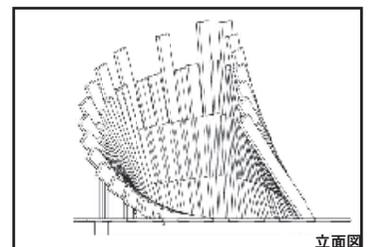
山田絵理 (SU)



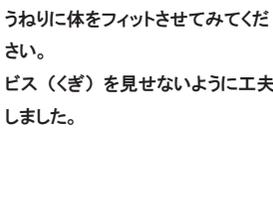
平面図



立面図



立面図



うねりに体をフィットさせてみてください。  
 ビス（くぎ）を見せないように工夫しました。

## 講評

熊本県立大学環境共生学部

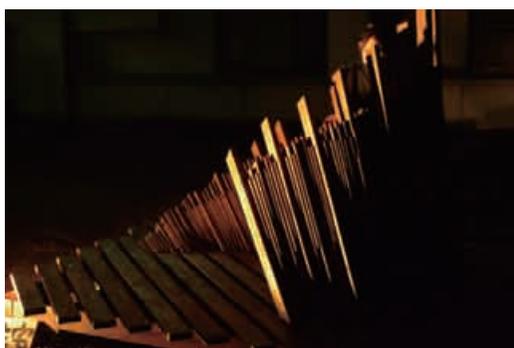
辻原 万規彦准教授

最終発表の時には、滑らかな曲線を創ることができたが、中間発表の時には、いくつかの木材が間を空けて立っているような状態であった。そんなところに座ると痛くないのか？使う人のことを考えてみたのか？という指摘に、見事に答えることができた。きっとメンバーの中でああでもない、こうでもないと思恵を絞り、工夫したのであろう。みんなが座って使い込むに従って、角が削れ、さらに気持ちの良い曲面になるのではなかろうか。

九州大学大学院人間環境学研究院

末廣香織准教授

数多くの板材を角度を変えながら組み合わせる手法は、その縛りゆえに形態の必然性と、デザインとしての安心感をもたらしている。少し囲われた座椅子のように座る空間は、一つの家具としていろんな場所で実際に使えるようなアイデアである。一方で、形態変化のさせ方や、板の組み方など、作品全体としての統一感に欠ける部分が多くあり、そのあたりの検討不足が目についてしまった。強いデザイン手法で作品を作るときは、その基本をどこまで徹底しながら、問題を解決できるかが勝負になるものだ。



←ライトアップされた住宅。  
 ↓つぼうでさかさになるメンバー







↑ 施工中

→末廣先生に講評していただいている写真

↓このようにご飯を食べたり、ねそべったりできます。

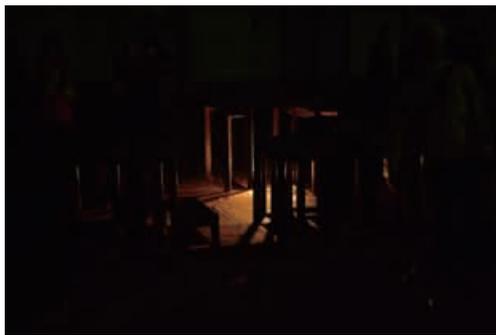


## 講評

熊本県立大学環境共生学部

辻原 万規彦准教授

中間発表の時に比べて、一番変わったIkoivaであった。他の班が改良を重ねようとしていた中、一から考え直すのは勇気がいったことだろう。限られた時間の中で、よく最後までまとめることができたのではないだろうか。右下の写真のように寝転がっている人がいるが、実はその前に、本当に寝てしまっていた人もいたらしい。きっと本当に気持ちがいいのであろう。机の上にペットボトルが挟めるような溝を創るなど、なかなか芸が細かい。



同じ材!!

田畑班の材はすべて同じものからできています。切る長さや、切り方を変え、このような形になりました。



九州大学大学院人間環境学研究院

末廣香織准教授

シンプルな形態を使っているような憩いの場所を作ってゆこうという考え方は、非常にわかりやすかつたし、デザイン自体にも無理が無く、全体として統一感もあり、実際に使えそうなりアリティある作品になった。しかし最終的な形態は、寝椅子になる部分を除けば一般の家具と同様のものだったため、使う人がそれぞれ創造力を働かせて楽しむ余地があまりなくなってしまう。また細かな寸法設定ももう一つ使いやすさとは言えない部分もあり、さらなる工夫が欲しいところである。

# Ikoiva

X

## スラム



↑ 閉鎖的な狭い空間。

↓ 自由にらくがきをしました。



### concept

らくがきを媒体とした他者とのつながり。

それはここにしかないコミュニティとなり、  
無秩序ながらも自由な空間となる。

自由にらくがきをたのしんだり、誰かが描いたらくがきをみたり、、、  
ひとによって異なる時間のすごしかたができるだろう。

世の中にはメールやインターネットがあふれるなか、

ここでは原始的なコミュニケーションのひろがる憩いの空間がある。

### diagram

閉鎖的な囲まれた空間

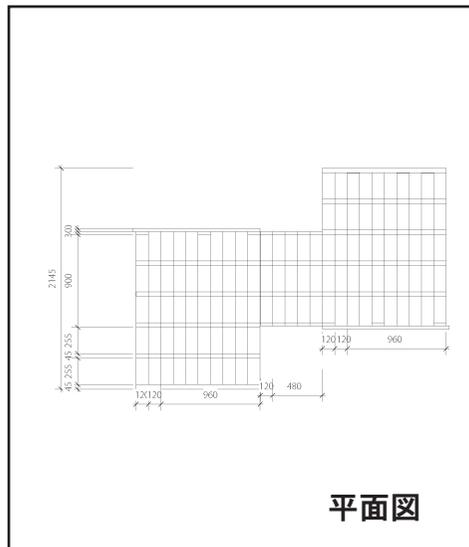


日常のなかの閉鎖的空間

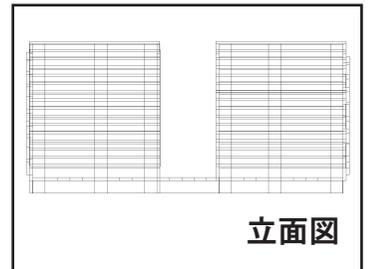
(たとえば土管のような、、、)



より単純で簡単な面構成としての三角柱のかたち



平面図



立面図



立面図

## Member



Group Leader

中野慎亮 (PUK)

黒岩知秀 (PUK)

小柳巴 (PUK)

崎坂伸明 (PUK)

末松岳 (PUK)

長尾卓哉 (PUK)

中山美祈 (PUK)

Group Leader

山口浩介 (KU)

大川正典 (KU)

山田博子 (KU)

Group Leader

田中希 (SU)

Ikoiva Leader

江口克成 (SU)



みんなで手形で落書きしました。

## 講評

熊本県立大学環境共生学部  
 辻原 万規彦准教授

唯一、色がついている班である。楽しそうにペンキで手形をつけている姿が印象的であった。上手く文字や木の形が浮かび上がるかどうか心配であったが、上手いといったようである。中間発表の時から、設定したテーマを如何にかたちにするのがとても難しい班でもあった。その意味でも、他の班とはだいぶ違ったIkoivaができたのではなかろうか。いろいろと落書きしてもらったものがいつまでも残って、良い記念になることを祈っている。

九州大学大学院人間環境学研究院  
 末廣香織准教授

まず第一印象としていろんな色をした手型やメッセージなどが目に飛び込んでくる、インパクトのある作品である。建築は、それを使いこなしてゆく人々の生活の跡が見えることによって、その存在感や魅力が増したりすることを再認識させてくれる。中に入ってみると非常に狭い空間ではあるが、子供の頃に作った秘密基地のように、狭いがゆえの安心感のようなものを感じることができた。ただし、建築の作り方としては、ちょっと工夫に乏しかった。もし本物の段ボールハウスくらい、そこで生活する人の身になった作り込みができていたらと思う。

←message という文字と木が描かれています。

自由に落書きしてください。



# Ikoiva

X

## アンケート

Ikoivaを終えて、参加した熊本県立大学の学生にアンケートを行いました。Ikoivaに参加してIkoivaについてどう思ったか、また、他大学との交流を通して気づいた熊本県立大学環境共生学部環境共生学科居住環境学専攻とはいったいどのようなものなのでしょうか。

### Ikoivaを通して

Q1

Ikoivaで何が一番の思い出ですか？

みんなでワイワイ言い合っって案を考えているとき(まい) 施工で手にペンキを塗って手形をつけたこと(黒岩) 作業後の短い時間。他大学生と話すことが面白かった。(みゆき) 完成直前、最後のビス留めを全員で1個ずつやったこと(´▽`)(みっこ) 沢山あります。笑(かな) 皆で話し合いたこと(もり) 飲み会かなあ？(はるび) 手にペンキをつけてベタベタしたこと。(ともえ) 実物を作れたこと(さとこ) 白亜祭でのライトアップ(さやぶ) 建築について馬鹿みたいに話したこと。(さわ) みんなで案を練っている時(つむら) 施工の時かな。(あ、これ無理だ(笑) ——…終わる気がない……。) 達成感とそれに至るまでの大変だった足…色々、が思い出。(あやか) 皆で頑張った施工!(やなが) 実際に自分たちが考えたものが実寸大で出来上がったとき。(まや) 大観峰に行ったこと(みきてい) 皆で徹夜してアイデアが考えたり、図面ひいたり・・・同じ大学じゃない人とこんなに真剣に建築について考えることができたのはやっぱりすごい事だと思いました。(とよち)

Q2

Ikoivaを通してどんなことを学びましたか？

実際に設計して施工することの難しさ(まい) 人の数だけ色々なアイデアやデザインが生まれること、デザインには他の人にも伝わるように理由付けが必要なこと(黒岩) 実際に施工する目標があるので、材料の調達、機械の安全な使い方、など普段学べないことが学べた。(みゆき) 大人数いる中で自分がどう動かなきゃいけないかすごく考えた(みっこ) ワークショップの楽しさ、難しさ(かな) 他大学はすごい事してて、すごい人ばかりだと勝手に思い込んでいたが、実際は大差ないこと(もり) 他大学の建築に対する意識。(はるび) イメージの共有の難しさ。(ともえ) 仕事に適当さは通用しないこと。計画から施工までもそうだが、半端なものづくりはできないから(本当に必要とされるかとか)。そして、ちょっとずつの施工のズレで図面とちょっと違うものができたが、仕事だったらたぶん正確性に欠けるってことで信用などもなくなるから。ごめん。就活で厳しいこと言われたばっかでシビアになっちゃった。でも悪い場での経験があったから自分の不成熟さを証明できて頑張ろうと思うきっかけになりました。要は、生産の責任を学びました。(さとこ) 実寸大のものづくりの大変さと楽しさ(さやぶ) 仲間をまとめるむずかしさとかいろいろ(さわ) 協力する大切さ(つむら) やっぱり実際の施工法を考えながらの設計って大変なんだということ。頭の中では作れると思ってても実際はしてみないと分からないんだ。って学んだ。(あやか) 1つのものを作り上げる大変さ(まや) 人にものを伝えることの難しさ(やなが) 理想と現実のギャップ(あんな計算もうしたくない!) (みきてい) 県立大の居住にはないものを他の2大学は沢山持っていたので、いい刺激になり、モチベーションも上がりました。(とよち)

Q3

利用者にIkoivaをどんなふうにご利用してほしいですか？

みんなが集まって騒ぎながら憩ってほしい(まい) 県大生以外の人も弁当を食べる場所や話す場所として気軽に使ってほしい(黒岩) 特にコンセプトを意識せず、思うように利用してほしい。(みゆき) 自分が一番しっくりくる場所、体勢を見つけてほしい(みっこ) 自然な感じで!(かな) 気づいたら使っていたふうにご利用して欲しい(もり) 今はまだ寒いから無理kも入れないけれど、暖かくなったらお昼にはご飯を食べたり、座ってしゃべったり!(はるび) イメージの共有の難しさ。(ともえ) 豚汁大会とか餅つき大会とかバーベキュー大会とかを中庭で開催した時に、ベンチとして使ってもらえたら十分です。(さとこ) 日常で当たり前に使ってほしい(\*´`\*)(さやぶ) ふうつに飯食ったりしてほしい(さわ) がっつり憩ってほしい(つむりん) お昼ごはん食べるときとか、雑談の場として。だって憩いの場、だから。(あやか) 自由に使ってほしい、人それぞれ(やなが) 皆で楽しく使ってほしい(まや) のんびりと使ってほしい(みきてい)

Q4

あなたが思う「憩い」とはなんでですか？

自分なりにリフレッシュ出来ること(まい) 時間を忘れて安らぐこと(黒岩)・・・人と何かの相互作用によって心休まる。そんな感じ。(みゆき) 現実逃避できる環境(みっこ) 何気ない一瞬に感じる安らぎ(もり) 心のオアシス(´u´)(はるび) あまりむずかしいことを考えなくていい時間、空間。(ともえ) 快道であること。(さとこ) ほっとできること(さやぶ) 安らぐこと(さわ) 落ち着ける(つむりん) 人と人が穏やかに触れ合うことができる状態。(あやか) リラックス(みきてい) くらげ(まや) 休む、いこむ(やなが) 自分がいて、隣には誰かがいて。1人だけでは味わえないような柔らかな雰囲気になること??? (とよち)

Q5

Ikoivaを終えて良かったことは？

他大学の色々な考え方・意見に触れることができた(まい) 他大学の建築に対する意識の高さを知れたこと、普段なら交流出来ない他大学の学生と知り合えたこと(黒岩) 他大学生のカラーを生かしたスタディ方法を知れた。(みゆき) みんなとの絆が深まった! 他大学の班と刺激し合っって、良いものを作ろうってゆう向上心が高まった!(みっこ) 他大学との交流から色々刺激を受けた!(かな) 他大学だけでなく、県立大の皆とも仲を深めることができたこと(もり) 他大学にも友達が出来た! この繋がりはきっと一生のもの(はるび) 建築のことを考えたり、発言する機会を得られたこと。ユーザーがいたこと。(ともえ) みんなや他大学の人と交流が増えたこと(さとこ) たくさんの人に会えたこと(\*´`\*)(さやぶ) 自分が成長できた。あと他大学のパイプができた。(さわ) 他大学の人と知り合えたこと(つむりん) 他大学の人と交流できたこと。「他大学ではこういうこと勉強してるんだな」とか自分の知らないこととかを知れたから。(あやか) 違う学校の人のつながりが出来た(まや、やなが) 九大に行けたこと(みきてい) 何より、自分の将来について考えるきっかけになってくれたのがIkoivaだったから参加してよかった。あと、友達も沢山できてホントいい思い出。(とよち)

Q6

Ikoivaで一番思い出に残ったことは？

完成した瞬間(まい) 手形押し(黒岩) 中間発表で批評を受け、それに対して改善案を回ったこと。(みゆき) 班で遊びに行ったり飲み会(みっこ) やっぱり同じ建築を学ぶ他大学の仲間に出会って、意見交換して、作業して、仲間になったこと! 笑(かな) 佐賀大生(もり) 話し合い、作業工程全部! ひとつひとつが貴重で大切な思い出です!(はるび) 全部!(さやぶ) 飲み会w 駄目なら作業にしといてw(さわ) 完成した瞬間(つむりん) もちろん文化祭。(あやか) 製図室でガールズトークしたこと(まや) 過去最高の人数が泊まりにきたこと(2ヶタ) 達成!(やなが) やOが宅での鍋(みきてい) 思い出・・・九大のメンバーのキャラの濃さもいい思い出(´ω´)(とよち)

Q7

Ikoivaでいちばん良かったことは？

部材を切り分けて、サンダーかけて、防錆剤を塗った段階(まい) 施工の時期が課題の時期と重なったこと(黒岩) 建つのかどうか何度も検討したこと。(みゆき) かななかメンバーが揃わず... (みっこ) 夜中までかかって図面等を作った(かな) 勉強不足で、みんなについていけないことが多々... (反省) 期間は十分でしたが、コンセプトと実用性・実現性(夢と現実)の兼ね合いに時間がかかり大変だった。(もり) うーん、バイトとの両立? 実際あまり参加できなくてかなり後悔してる。少ない参加だったけどそれくらい楽しかった! だから、来年や後輩もやるならガチでやった方が絶対もっともっと達成感とか、充実すると思うよ(´J´)(はるび) 回復早起き(さやぶ) 人をまとめること(さわ) 施工...かな。(あやか) 課題が終わらない(まや) 宅建との両立(みきてい) きつくなかった!(やなが)

## Ikoiva の 改善点

他大学よりも、自分たちの間の方が連絡がうまく取れてなかった気がする。その点を改善したい。(まい) アイディアを考える段階の活動にもっと参加しておけばよかった(施工からの段階からよく参加するようになったから)(黒岩) 全体の基本テーマ・コンセプトをわかり決めて、各グループの関連性を明確にすること。(みゆき) 幹部だけがきつい思いしないような、他のメンバーのバックアップがもっと必要(みっこ) 夜中までかかって図面等を作った(かな) 接合部の話や強度の話は意外と何とかなるので、考えることに無駄に時間を費やさないほうが良いと思った。(もり) ん？それは、もっとガチで参加しておけばよかったことかな？(はるび) 早め早めの行動！(さやぶ) いあ、あの人数でやるにはあれがベストと思います。(さわ) 中間発表をもう少し早めにしてがよかったかも(つむりん) 自分のスケジュール管理(やなが) お金がかかった(交通費、食事代など)(まや) リーダー同士のやりとり(みきてい) 自分の意見をもっとはっきり言えばよかったかなあ。リーダーじゃなかったらもっと自由になっただかも！(とよち)

Q1

## あなたにとっ

## での Ikoiva と は？

今まで学んだことの集大成？(まい) 建築の基礎を学ぶいいチャンス。(設計施工、維持管理に至るまで学生で行うから)(みゆき) 大学生活 最高の思い出！作品は宝物！(みっこ) 良い経験。良い思い出ができた最高のもの。(かな) 思い出の品(もり) 仲間の証。青春の証。建築やっていた証。笑(はるび) いい思い出。手帳の、八月後半のページは Ikoiva のことであっけいなを今、見返してびっくりしました。(とよち) 青春☆やってよかった☆(さやぶ) 大学最高のイベントやね(さわ) 経験(つむりん) はじめての実物作品だ——！！どや顔で自慢したいもの、です。(あやか) 青春(まや) 貴重な経験(みきてい) つながり(やなが) 大学生活で1番の思い出！これからもずっと大切にしたいです。(とよち)

## Ikoiva 見どころ

### Q1 ここが難しかったよ Ikoiva

(模様) 斜めになっているところを綺麗に合わせる(まい) グループ(コンセプト)によってかなり個性的なデザイン(黒岩) 構造を考慮した設計。(みゆき) 作りたいものの強度、安定、安全性の問題(みっこ) 皆の意見をうまくまとめること(かな) 皆と打ち解けるまで(もり) 案がいきまづった時ですかね？私がいうのもなんだけど・・・(笑) なかなかいい案が出なかったとき。出ても、それが現実化するかって考えたらいろいろ大変だったと・・・と思う。(笑)(はるび) 施工はほかの班に比べて簡単だったかと。(とよち) 施工は初めてだったから全部(さやぶ) 自分の意見を押し殺すところ。(さわ) 施工(つむりん) ビル群の美しいうねり。角度…間違えまくったのが反省点。つくづく自分は図面苦手だと実感しました。…建築勉強してるのに…。(あやか) 木材の計算(みきてい) さまざまな接合部(まや) 皆の意見を1つにまとめること(やなが) ビル群のひねり具合(とよち)

### Q2 ここが楽しかったよ Ikoiva

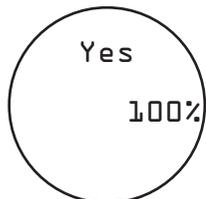
実際に施工する時(まい) 個性的な人が集まったグループで色々な考え方が知れて楽しかった(黒岩) 大所帯なのでいろんな人の意見が聞ける。(みゆき) 毎週末は1日ずつ一緒にいて関係を育んだ(みっこ) 飲み会！笑(かな) ブログの利用(もり) 大学の一線を越えて、みんなと仲良くできたこと。お互いに切磋琢磨しながら、尊敬するところも出てきながら～の刺激を受けて建築に対する意識が強くなったひとが多いと思う！とよちとか ww 爆(はるび) 防錆剤塗り。(とよち) サンダーとかなかなか意外外にはまるw(さやぶ) いろんな人と友達になれる。(さわ) 施工(つむりん) 施工が出来上がっていきとき。自分たちの手でモノが作り上げられていく様子が楽しかった。(あやか) 皆と喋れた(やなが) 皆のキャラの濃さ(まや) み〇と櫻〇くんをいじめたこと(みきてい) スラム班のペイント！(とよち)

### Q2 ここはみとけよ Ikoiva

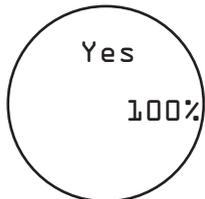
立面的に斜めになっているところの寝心地(まい) 商店街のイス。(みゆき) 商店街が跨るうねうね座面！(みっこ) 商店街のあの絶妙なカーブ！(かな) それぞれの街の要素(もり) 商店街の積層のあのなめらか？な曲線！笑 それぞれのグループ作品全部が見どころだよん。(はるび) らくがきの数々。見るだけじゃなく、増やしてもらえとうれしいです。(とよち) 全部(\*^\_^\*)(さやぶ) ボードの写真。変な人いっぱいいるから。(さわ) ビスの場所(つむりん) 施工が出来上がっていきとき。自分たちの手でモノが作り上げられていく様子が楽しかった。(あやか) 全部同じ部材だけ(みきてい) 毛は三角だけじゃないんだけ(まや) 実は寝るんだぜ(やなが) Ikoiva 夜のライトアップ(とよち)

## Yes or No ?

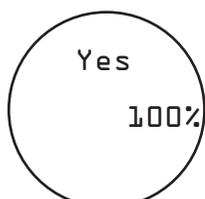
Q1 Ikoiva に参加  
してよかったですか？



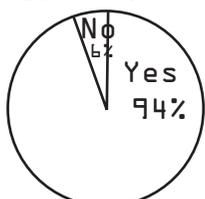
Q2 他大学のメンバーと  
なかよくなれましたか？



Q3 他大学から刺激を  
受けましたか？



Q1 あなたは Ikoiva  
で憩えますか？



## 他大学と交流して気づいた居住環境学専攻

## 1 日頃の設計課題などと課題の違いは？

実際に建つことで、強度とか施工の仕方等の細部まで考えなければいけない(まい) 実際につくることが出来て、完成したものをみられること(黒岩) 普段の課題では紙に描いて提出したらそこで打ち切りになるけど、実寸大のものを作ってそれが他の人の目にも触れる形で残ること(ちづる) 作業工程が多い(みゆき) 実際に実物になるから規模や施工面をちゃんと考えなきゃいけない(みっこ) やっぱり現実に建てるから、ステールとかをきちんとしなければならなかったところ。また、皆でコミュニケーションを取りながらしていくところ。(かな) 学生主体(もり) 実際に体を動かして、施工したところ！一人じゃなくてグループでやるところ。(はるび) チーム作業。(ともえ) プロセスとかの考え方も違った！(さやぶ) 実施設計、しかも自分たちで施工になる所。(さわ) 実際に建てた点(つむりん) 実際の施工と材料の制限がかかる所。場所も具体的に考えないといけない。設計して、はい終わり。じゃないのがいかに大変なのか分かった。(あやか) 実物が出来上がる(やなが、まや) 自由に意見が言い合える。居住では批判的な意見や改善点の指摘はあまり出ないけど、他の大学のメンバーは遠慮なく色々発言してくれたから為になった。(とよち)

## 2 他大学と比べてこの学科のいいところ

仲がいい。一体感がある感じ？(まい) 人数が少ない分、人が集まりやすいこと(黒岩) この学科のいいところは、居住だけでなく環境に関する広い視野で勉強出来ること。(ちづる) フレンドリー、何でも楽しむ(みっこ) 他大学と比べて居住わ机上の勉強だけでなく、物を作ったり設計したりできるのがいいところだと思う。あと皆仲良いから、それおこの人数でこの居住だからだと思う！(かな) パソコン室、製図室が結構自由に使えることはとても良い(もり) 製図室と居パソの存在！(笑) やっぱ、建築オンリーじゃなくて環境のこととかも勉強するのが大きな魅力？でも、自由に勉強したい人にとってはものたりないだろうな～。(はるび) 木の特徴を意識してると(強度特性、反り・割れなど)。(ともえ) いろんな視点から見れてると思う！その分深くやれてないところもあるのかもorz(さやぶ) CGソフトのスキルを学べる。でも本学生徒は『建築』に対する意識が低い。しかし建築のインテリアに対しては意識が高いかも。(さわ) 環境や木造に特化した勉強に強いところがいいところかな。(あやか) 仲が良い(やなが、まや) 危機感を持つ(皆課題ギリギリまでやらないから) 建築っぽくない(やなが) 皆仲良い。建築系学生の団結力はやっぱりすごい(・∀・)(とよち)

## もっと改善できるどころ

意見の出し合い？話し合いをしている時に他大学の方が意見がいっぱい出てる気がした。改善は特になと思う。改善点はそのぶん、設計の課題が少なくCADを使う授業自体も少ないから、もっと増やしたほうがいい。他大学生を見ていて建築に対するモチベーションが違うと思った。①他大学生を見てると、もっと建築に対して楽しんでいいと思った。県大に来てもらう立場だったから、もっと県大メンバーの参加率をあげるべきだった。②教授を増やして欲しい③他の専攻の授業は一年のときだけでいい④縦のつながりが極めて作りやすい環境とカリキュラム。授業外活動への積極性が無いとほぼ無理。一最重要。外部に対するアピール力。

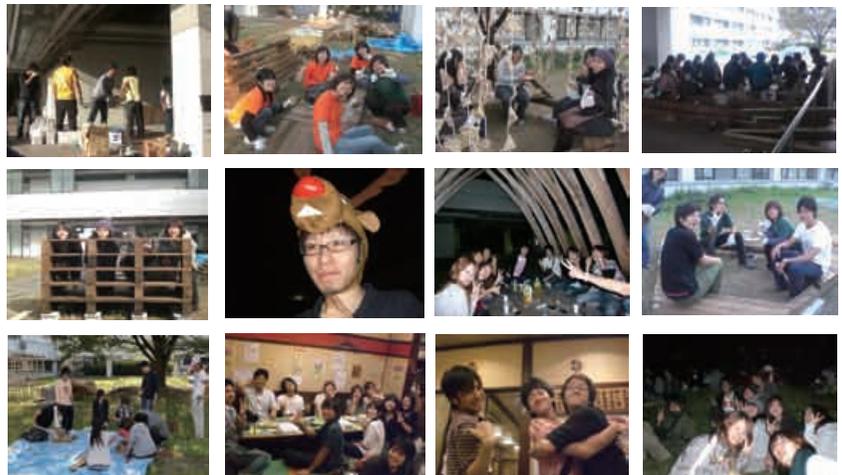
## 3 居住の魅力的どころ

幅広い分野が学べる？(まい) 少人数で和気あいあいとしてると(黒岩) みんな仲よしなところ(笑)(ちづる) オープンマインドなところ。(みゆき) 男女仲よし！パワーがある！めぐが可愛い！(みっこ) 皆仲よし！皆モチベーションが高いから、自然に自分もモチベーションが上がる。(かな) まず大学の立地◎クラスメイとの仲のよさ、仲良くなりやすさ◎(もり) 上とかぶるけど、幅広い建築の知識が学べるどころ？(はるび) アットホーム。(ともえ) 仲よし(\*^\_^\*)(さやぶ) みんなが仲がいい。他大学よりも一つの専攻でまとまるとかあるとモタ。(さわ) パソコンや製図室などの完備がすばらしい！(つむりん) 和気あいあい(みきてい) 建築系の学部なのに女の子が多い(やなが) 美男美女(笑)(まや) 皆仲よし。建築系学生の団結力はやっぱりすごい(・∀・)(とよち)

## 4 建築について思うところ

ごめん、ちょっと難して書けないや(汗)(まい) 色んな建築があるから、それを実際に見て、もっと建築について語れるようになりたい(黒岩) 何て言えばいいかわからないけど、建築は人間が生活するうえでなくてはならないもの1つであると思う。(ちづる) (建築じゃないけど) 日本の林業や製材業と大学がうまく連携して、日本材がもっと身近になればいいなあと思います。(みゆき) 奥が深い。(みっこ) 面白い！！(かな) 難しいなあと思う(もり) ikoivaを終えて、自分自身の建築への意識が変わった。他大学でがんばっている子たちをみて、刺激を受けた。建築ってやっぱりいいよ、すごいよ、深いよって言うようになった。(はるび) さっき新鋭建築家特集、みたいな本を立ち読みして思ったのは、白い。薄い。これがこれからの日本の建築家がつくる建築のスタンダードになるのだろうか、という危機。(ともえ) ikoivaを通していろんな人に会って前よりもっと建築が好きになりました！(さやぶ) これすんごくなるしパンフに載せると気持ち悪くなるから一言で。建築は常にラディカルでなければならないと思う。(さわ) 建築は楽しい！！(つむりん) 建築って素敵(まや) おもしろい(みきてい) 楽しい(やなが) これから一生付き合っていきたいと思っている。難しい、なにが正解なのか、何をしたら面白い空間が実現するのか、あしたの中ではきっと答えはずっと謎のままだと思う。それだからこそ楽しい、魅力的なのだと思います。(とよち)

## 写真





# Ikoiva 写真館



koiva□Ikoiva□Ikoiva□Ikoiva□Ikoiva□Ikoiva□Ikoiva□Ikoiva□Ikoiva□Ikoiva





# 協賛 / 協力 Special thanks

球磨村森林組合 肥後木材株式会社 共和建設株式会社

阿蘇森林組合久木野加工場 空株式会社 (有)仲組

朱交会 (上田浩靖 金子圭介 清水重寿 下山邦磨 長谷川圭 原圭一郎 古井浩二 山本政典)

## 個人協賛

熊本県立大学環境共生学部

中島熙八郎教授 北原昭男教授 村上良知教授 辻原万規彦准教授 細井昭憲准教授

九州大学人間環境学研究院

出口敦教授 有馬隆文准教授 趙世晨准教授 山口謙太郎准教授 志賀勉講師

佐賀大学理工学部都市工学科

丹羽和彦教授 三島伸雄准教授 後藤隆太郎准教授 平瀬有人准教授

小島昌一准教授 田口陽子助教 淵上貴由樹助教

三大学合同ワークショップにご協賛、ご協力いただきまことにありがとうございました。

本プロジェクトを成功をおさめることができたのはみなさまのおかげです。

この場をかりて、このプロジェクトにご協力いただいた皆様に、三大学合同ワークショップ一同深く感謝申し上げます。

# アドバイザー

末廣 香織  
(九州大学大学院人間環境学研究院准教授)  
辻原 万規彦  
(熊本県立大学環境共生学部准教授)  
平瀬 有人  
(佐賀大学理工学部都市工学科准教授)

## 参加者名簿

### 3 大学合同 ワークショップ 実行委員会

熊本県立大学 環境共生学部 環境共生学科 居住環境学専攻 3年  
大倉愛美 陳内千弘 山本達也  
九州大学 工学部 建築学科 3年  
岩田和也 田中伸穂 中道大樹  
佐賀大学 理工学部 都市工学科 3年  
池田麻衣子 江口克成 大塚一翼

### 熊本県立大学

環境共生学部  
環境共生学科  
居住環境学専攻 3年

麻田瑠美 荒牧久美子 石橋麻弥 今村友紀 臼井希和 宇高江美 浦口由香  
江野友里恵 大倉愛美 國徳倫代 黒岩知秀 小濱里子 小柳巴 齋藤香菜  
崎坂伸明 澤伸彦 陳内千弘 末松岳 仙波綾乃 高津朋絵 高野晴香 高野愛美  
津村薫光 豊住由貴 仲美帆子 長尾卓哉 中島沙也 中野慎亮 中山美祈  
藤田麻衣 藤本綾香 堀口紗絵子 松下千鶴 三原千佳 宮嶋由貴 森隆紀  
安岡奈名子 彌永佑亮 山田亜都幸 山本達也 若杉美樹 花園幸

計42名

### 九州大学

工学部  
建築学科 3年

中道大樹 太田健一 大屋綾乃 金子晃子 一木昇太郎 櫻井恵介  
大和遼 田中伸穂 島津聡美 岩田和也 和田雅人 田口嘉基 山口浩介  
大川正典 山田博子 佐藤美奈子 入江奈津子 魚住英司

### 佐賀大学

理工学部  
都市工学科 3年

池田麻衣子 上村恵里 後藤祐貴 大塚一翼  
外尾昂之 峰沙由梨 黒木怜奈 豆田千晃 山田絵理  
泉竜斗 森川亜衣 江口克成 田中希

計18名

計13名

## 製作

表紙デザイン 豊住由貴  
編集・構成 大倉愛美 陳内千弘

PUK×KU×SU

